









マリイのバザール ロシア人の商人



カラクム運河



牛タンと茸のチーズ焼き

トルクメン族の生活の今昔などが展示されている。翌朝8時にはホテル・マルグーシユを出発し、一路ウズベキスタンのブハラを目指して三八五kmのバスドライブである。カラクム運河の近くで休憩した。後はカラクム砂漠の風景を眺めながら終日のバス移動である。トルクメンアバードのレバブ・レストランで摂った昼食は米のスープ、牛タンと茸のチーズ焼き。これは美味しかった。撮った昼食は米のスープ、牛タンを徒歩で渡った。橋や河の撮影は固く禁止されているので写真を示すことができない。



ギャウル・カラ跡 ここに仏塔が建っていたと考えられている。



スルタン・サンジャール廟



大キズ

最盛期は11〜12世紀であった。彷徨える遺跡という別名があるように、この遺跡にはゾロアスター教、キリスト教、ネストリウス派、イスラム教、仏教と、いくつもの世界宗教がその興亡の歴史を刻んだ所である。13世紀にはモンゴル軍が80万人の軍勢で攻め寄せこの都市を破壊し尽くしたという受難の歴史ももっている。その当時メルブ周辺一帯には一三〇万人が生活していたという。紀、大キズ・カラ、小キズ・カラ、ムハンマド・イブン・サイード廟（12世紀）、スルタン・カラ内のスルタン・サンジャール廟（12世紀）、エルク・カラ（BC6世紀）、ギャウル・カラ（BC6世紀）、ベニ・ハマンモスク、仏塔跡、大キズ・カラ、ムハンマド・イブン・サイード廟（12世紀）、スルタン・カラの墓守の住居を見学してから、マリイ市のヘキシャヘールレストランでトルコ料理の昼食を摂った。豆スープ、トマトソース添えのケバブである。昼食後、マリイ博物館を見学した。ここにはメルブ遺跡の見取り図、出土品、